

MIXVIBES DVS EDITION マニュアル

日本語



バージョン 6.28

イントロダクション

MIXVIBES DVS EDITIONをご購入いただき、まことに有難うございます。このマニュアルは以下のURLからもダウンロード可能です。

<http://www.mixvibes.jp/pagejp/page.php?x=help>

また、製品の質問や疑問がある場合はMIXVIBESフォーラムがあなたの役に立つでしょう。

<http://www.mixvibes.dj/>

※多言語対応（日本語可）

必要動作環境：

- a. OS: Windows XP、Vista
- b. CPU: Intel Pentium III 1GHz以上のもの
- c. RAM: 512MB以上
- d. サウンド（必須）：Direct XかASIOと互換性のある、マルチチャンネル対応（5.1または7.1）のサウンドカード、またはUSB/FireWire接続のオーディオインターフェイス
- e. サウンド（推奨）：2つのライン入力と2つのライン出力を備えたマルチチャンネルのサウンドカード

本マニュアルのアイコンの説明



Tips(豆知識)



FAQ（よくある質問）



重要

I : はじめに ...	4
1- ようこそ	4
2- ソフトウェア紹介	4
3- ターンテーブルの接続	4
4- インストール	6
5- アップデート	6
6- アクティベート	7
II : オーディオのセットアップ.....	8
1- サウンドカードのドライバ.....	8
2- サウンド出力	10
3- Vinyl 入力	11
4- キャリブレーション	12
III : メニューについて	14
1- ファイル	14
2- 編集	15
3- オプション - 一般設定	15
4- オプション - ミックス	17
5- オプション - サウンド	18
6- オプション - Vinyl	19
7- スキン	21
8- キーボード / MIDI / DJ Console	22
9- メディア	22
10- その他	23
付録 1 : 通常の Vinyl レコードを音声として再生するには	24
1-Y ケーブル	24
2-Bypass ボタン	25
付録 2 : MIXVIBES を最適化してパフォーマンス / レイテンシーを改善する.....	26
付録 3 : 環境設定に関する問題.....	27

I : はじめに ...

1- ようこそ

MIXVIBES DVSをご購入いただきまことにありがとうございます。

MIXVIBES DVS (Digital Vinyl System) は、コンピュータ上でのミキシングからスクラッチングに関して研究し尽くされ、プロフェッショナルなDJからアマチュアのDJまで、あらゆるユーザーのニーズに応えることができる強力なソフトウェアです。

私たちのエンジニアは、このソフトウェアの開発と検証に多くの時間を費してきました。MIXVIBESはもっとも信頼でき、もっとも精密な“デジタルVinylソリューション”を提供します。あなたはMIXVIBES DVSがより本物のVinylレコードに近いことを実感するでしょう。

動作環境:

- a. OS: Windows XP、Vista
- b. CPU: Intel Pentium III 1GHz以上のもの
- c. RAM: 512MB以上
- d. サウンド（必須）: Direct XかASIOと互換性のある、マルチチャンネル対応（5.1または7.1）のサウンドカード、またはUSB/FireWire 接続のオーディオインターフェイス
- e. サウンド（推奨）: 4つのライン入力と4つのライン出力を備えたマルチチャンネルのサウンドカード

2- ソフトウェア紹介

MIXVIBES は、サウンドカードを通してあなたのコンピュータからデジタルオーディオファイルを演奏することを可能にしてくれます。さらに、あなたのターンテーブル（またはCDプレイヤー）を通してVinylレコードでオーディオファイルをコントロールする柔軟性を与えてくれます。あなたのターンテーブルはデジタルコントローラーに変身するのです！ターンテーブルで行う動作のすべて（ピッチ、スクラッチ、シーク……）はオーディオファイルに即座に反映されます！

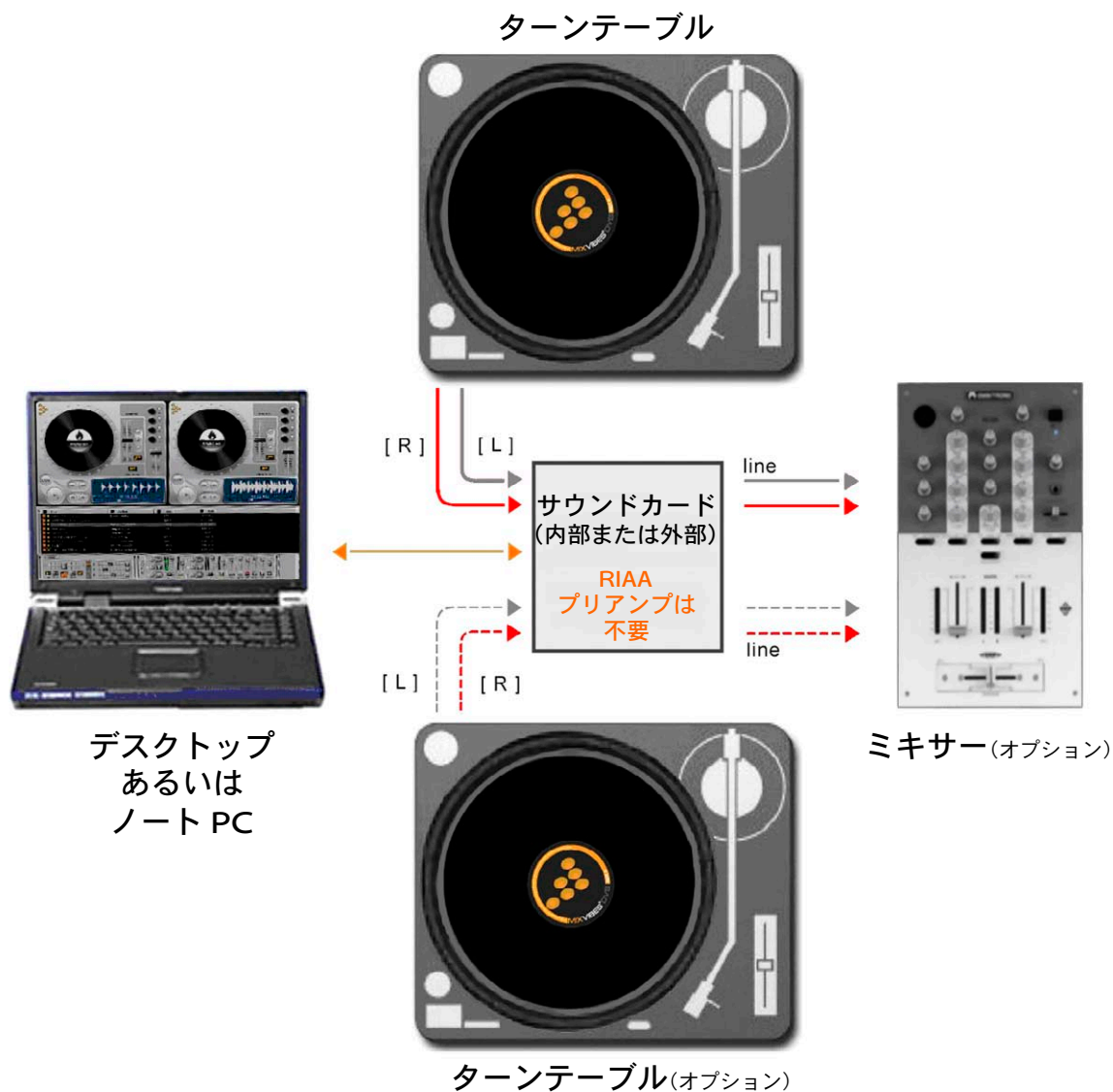
MIXVIBESは最高の音質、最高の反応性、そして低スピード時にも非常に良い動作を提供しています。クリック音も、人工的な不自然さも、デジタルノイズもありません。ターンテーブルリスト・コミュニティはこのMIXVIBESを選択しました。このソフトが最高のVinylレコードエミュレーションだからです。

3- ターンテーブルの接続

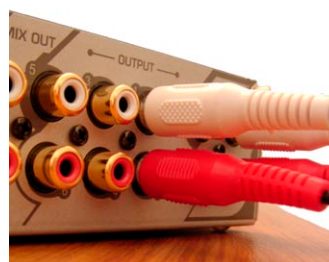
MIXVIBESは、あなたのセットアップに見られる従来の機器（ミキサー/ターンテーブル）のように接続されます。ターンテーブルは、コンピュータによって生成されたシグナル（タイムコード）を持つDVS Vinylを再生します。このシグナルはあなたのサウンドカードの入力によって受信されます。処理が終わると、MIXVIBESは、あたかもオーディオファイルがVinylレコードに録音されているかのように、これらのファイルをサウンドカードの出力へと再生します。サウンドカードの出力はミキサーに接続されています（次の図を参照）。

ターンテーブルのステレオケーブルの接続順はとても重要です（通常、左が白または黒のRCAコネクタ、そして右が赤のRCAコネクタ）。左のケーブルをサウンドカードの第一の入力へと接続し、右を第二の入力へと接続する必要があります。ふたつめのターンテーブルは、第三（左）と第四（右）の入力に接続されることになります。もしもふたつのチャンネルが反転していた場合、MIXVIBESは逆再生してしまいます。

注意: RIAA プリアンプは必要ありません。RIAA はMIXVIBESがエミュレートします（設定はファイル>オプション>Vinyl>Riaa フィルタにて変更できます）。ターンテーブル上にライン出力を備えているものもありますが、それを使用することは推奨しません。Phono出力からターンテーブルのシグナルを出力させたほうがより信頼できるからです。



(例1) MAYA 44 USBとターンテーブルの接続



(例2) EDIROL FA 66との接続



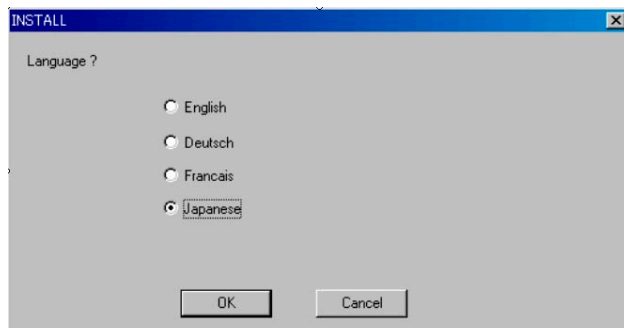
左右のケーブルの接続順に注意してください。

もしサウンドカードにRCAではなく標準フォン入力が搭載されている場合、RCAピン/標準フォン変換アダプターをご使用ください。

4-インストール

ソフトウェアのインストールCDを挿入します。セットアップが自動的に開始しない場合は、CD-ROM内のsetup.exeを実行してください。

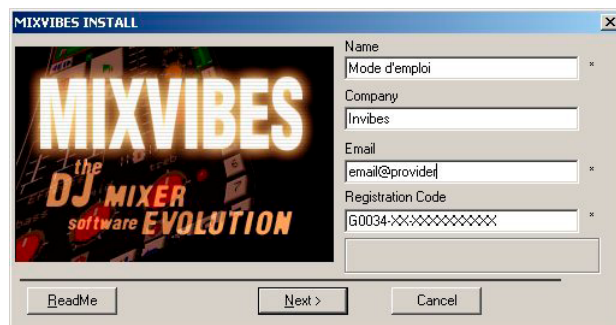
インストールする言語を選択します:



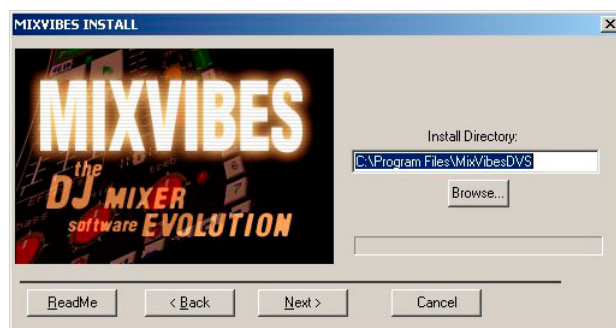
ライセンス契約を承認します:



次にお名前、会社名、メールアドレス、レジストレーションコードを入力します。レジストレーションコードはパッケージに同梱されています:



最後に、MIXVIBESをインストールするディレクトリを指定するか、デフォルトのディレクトリにインストールします:



おめでとうございます。MIXVIBESが正常にインストールされました！



このアイコンでDVSを起動します。

5-アップデート

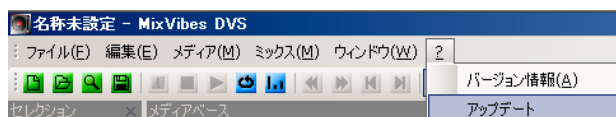
アップデートをする前に、最新のバージョンが提供されているかどうか確認する必要があります！

あなたのDVSの現在のバージョンを確認するには、"? "メニューの"バージョン情報"コマンドを実行してください。



あなたのDVSをアップデートするには、"? "メニューの"アップデート"コマンドを実行してください。

もしアップデートの必要がある場合は、最新バージョンがダウンロードされます。

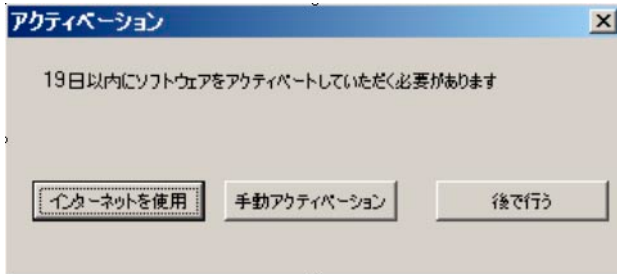


もしインターネット環境がない場合でも、アップデートをインストールすることができます。インターネットに接続されている別のコンピュータを使い、アップデートファイルをダウンロードし、それをMIXVIBESがインストールされているあなたのコンピュータに転送してアップデートします。

6- アクティベート

インターネット接続によるアクティベート

- メニューバーの"?"をクリックし、"アクティベート"をクリックします。「インターネットを使用」を選択してください。



おめでとうございます。MIXVIBES はあなたのコンピュータ上でアクティベートされました。



アクティベートは重要な手順です。アクティベートされない場合、MIXVIBESは30日間しか使用することができません。この期間の終わる5日前から、アクティベートが必要であることを知らせるウィンドウ起動毎にが表示されます。

ハードディスク、プロセッサ、RAMを変更してもMIXVIBESをアクティベートしなおす必要はありません。しかし、OSの再インストールやOSの変更時には新しくアクティベートする必要があります。

ライセンス契約では、MIXVIBESをあなたが使用しているコンピュータ2台にインストールすることが許可されています。しかし、2台にインストールされているソフトウェアを同時に使用することはできません。

インターネット接続のないコンピュータでのアクティベート

- メニューバーの"?"をクリックし、"アクティベート"をクリックします。"手動アクティベート"ボタンをクリックしてください。
- ハードウェアコードを含んだ情報ウィンドウが開きます:



- <メールテキストを生成>をクリックします。ハードウェアID、登録名、キーが記載されたEメールが作成されます。
- このEメールをフロッピーまたはUSBキーに保存してください。そして、このEメールを、インターネット接続可能なコンピュータから送信してください。
- MIXVIBESからアクティベートコードの記載されたEメールが返送されます（通常72時間以内）。
- 手動アクティベートのダイアログボックスで最後のステップまで進み、アクティベートコードを入力します。

ソフトウェアの設定に間するさらなる情報は下記をご参照ください:

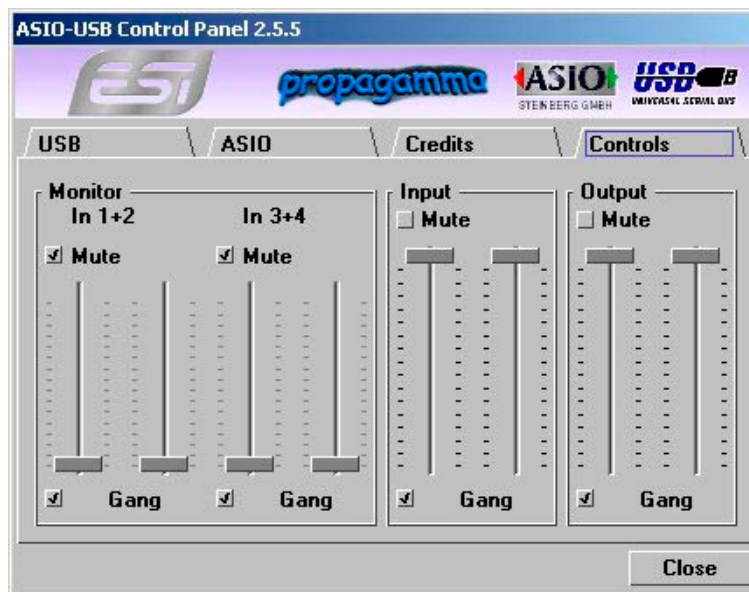
MIXVIBESフォーラム: <http://www.mixvibes.dj/>

II：オーディオのセットアップ

MIXVIBESを設定するには、下記の手順を実行する必要があります：

- 1) サウンドカードドライバの設定
- 2) MIXVIBESのサウンドカード出力の設定
- 3) MIXVIBESのサウンドカード入力の設定
- 4) Vinylのキャリブレーション

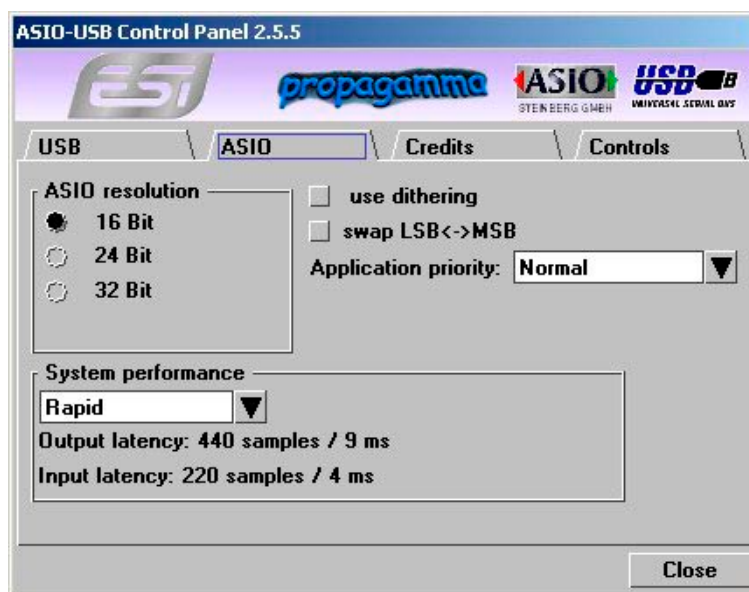
1-サウンドカードのドライバ



ご使用のサウンドカードに、入力/出力レベルを設定しておく必要があります。入力レベルは最大にしておくとい良いでしょう。出力はどのレベルにも設定することができます。

モニタリング入力を無効化しておかないと、Vinylシグナルがサウンドカード経由で再生されてしまいます。

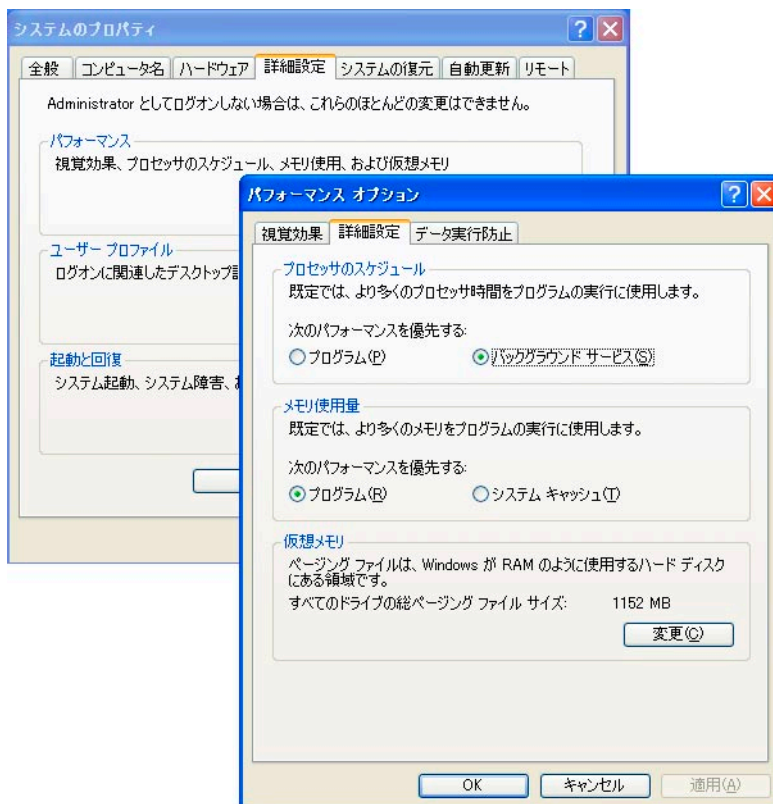
Maya USBを使用した例をご覧ください。出力を最大に設定しました。これは、MAYAはUSBオートパワーのため、非常に強力なサウンド出力には欠けているからです。モニタリングは無効化されています。



使用する設定にあわせて、最適なレイテンシータイムを選ぶことが重要です。レイテンシーが低ければ低いほど、あなたのシステムはより正確かつ素早く反応できるでしょう。しかし、レイテンシーが低すぎる場合は、CPUにより負担がかかり、クリックやスキップが生じる場合があります。

PCIオーディオカードの場合、レイテンシーを1msまで下げることが可能ですが、ほとんどの場合はレイテンシーを3msに設定したほうがより安定します。FireWireやUSBの場合、レイテンシーを4ms以下にするのは難しいでしょう。ASIOの場合、レイテンシーはオーディオサウンドドライバー内で設定されます。オーディオドライバー内でレイテンシーを変更した場合、MIXVIBESを再起動する必要があります。その他のモード（マルチチャンネル、カーネル、マルチオーディオ）の場合、レイテンシーはオプション/サウンドダイアログボックスで設定されます。

ASIOモードでは、ほとんどのサウンドカードに対して、Windowsの"バックグラウンドサービス"を優先するように選択することをおすすめします。その他のサウンドモード（マルチチャンネルまたはカーネル）ではおすすめしません。



注意: ASIO モードでは、MIXVIBES は 16bits/44.1kHz の設定でのみ動作します。コントロールパネル、またはサウンドカードのユーティリティにて設定してください。

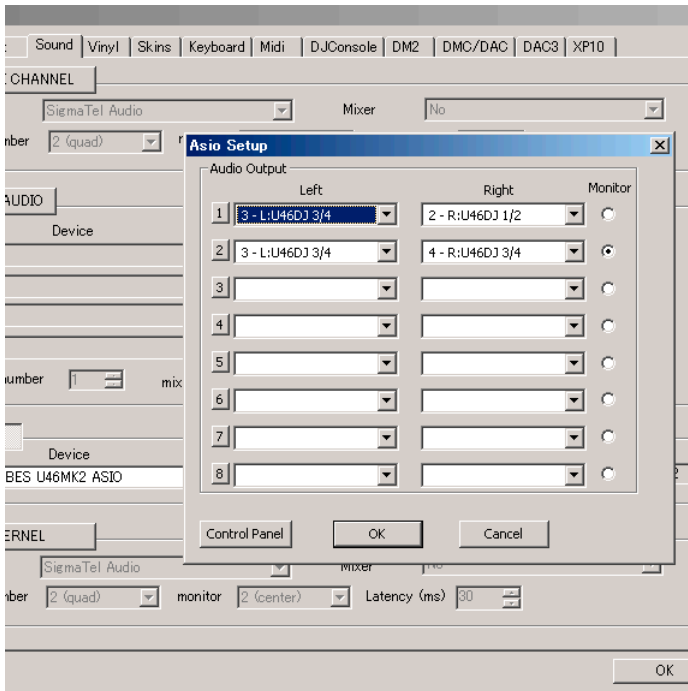
2- サウンド出力

メニューの"ファイル/オプション"コマンドを実行します。

"サウンド"タブを選択し、ASIOモードを使用したい場合はASIOボタンをクリックします。各欄の"デバイス"にてオーディオカードを選択します。

<設定>をクリックして、MIXVIBESの各出力用にサウンドカードの出力を選択します。もしご使用の出力のすべてがリストに表示されていない場合、サウンドカードのインストール状態に問題があります。サウンドカードが適切にインストールされているかどうか確認し、MIXVIBESを再起動してください。1行目に表示されるのが、MIXVIBESの1番目の出力、2行目が2番目の出力……になります。

各プレイヤーチャンネルの出力番号は"アウトプット番号"欄で選択します。別の出力を選択するにはこのボタンをクリックしてください。



注意: ASIO に関する変更のたびに MIXVIBES を再起動することが重要です (コンピュータの再起動さえも必要とするサウンドカードもあります)。

サウンドカードによっては、“オーディオのセットアップ”ダイアログボックスの"コントロールパネル"ボタンをクリックすることによって、サウンドカードのコントロールパネルを表示させることができるものもあります。その他のサウンドカードについては、Windowsタスクバーのアイコンからコントロールパネルからアクセスすることができます。

3-Vinyl入力

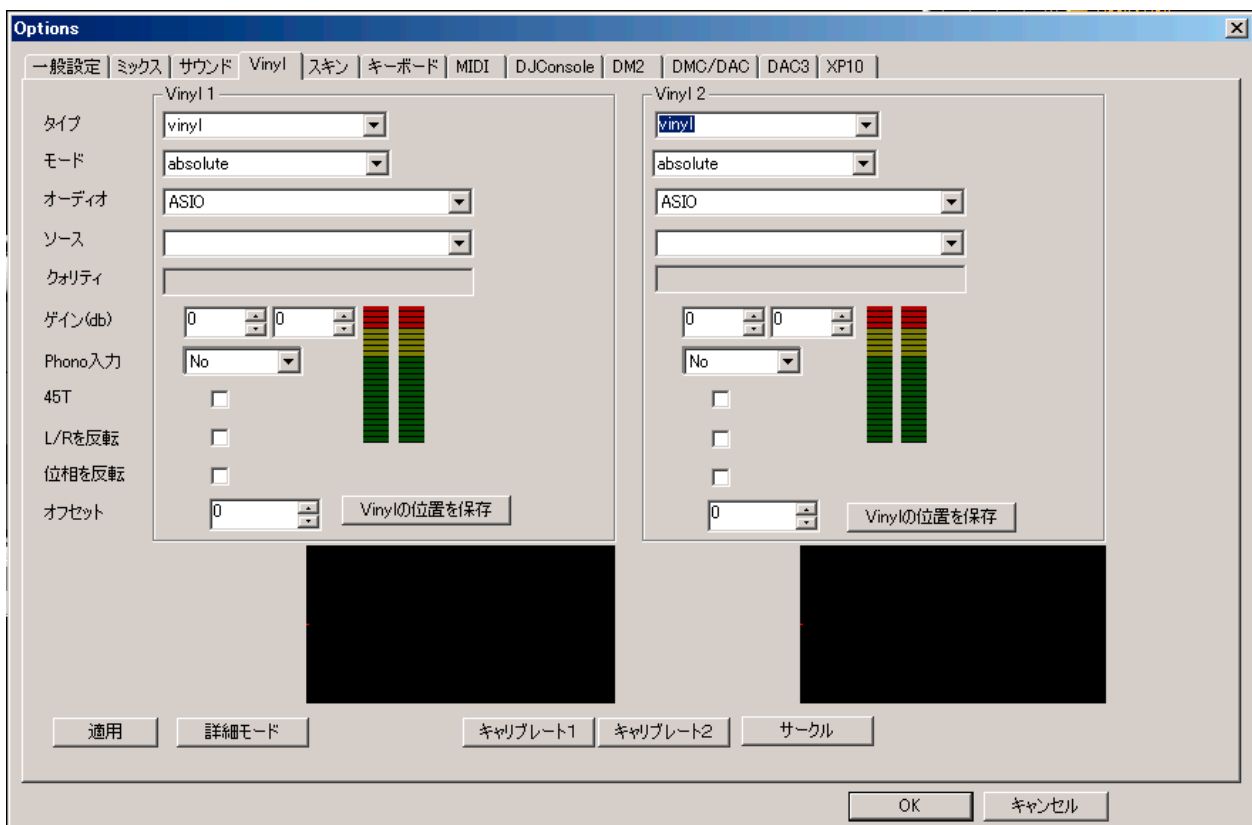
ターンテーブルに接続されているオーディオ入力の設定をする必要があります。

- 使用するタイムコードの種類（vinylまたはCD）を選択してください。
- ターンテーブルが接続されているサウンドカードを選択してください。
- ターンテーブルに接続されているサウンドカードの入力を選択してください。
- タイムコードのモードを選択してください。

MIXVIBESは4つのモードに対応しています。

- **Absolute** : 針のドロップに対応。MIXVIBESはVinylレコードの厳密な位置を常に追従します。このモードはより正確で、スクラッチに最適です。
 - **Relative time** : 針のドロップに対応。針のドロップはVinylのタイムコードに比例します。もし曲の中間に移動したい場合には、針をVinylレコードの中間に置いてください。このモードでは、針が小さく動いても、MIXVIBESは曲の位置を更新しません。Vinyl上の位置と曲の位置が異なる場合があります。また、ループ、特定の位置（キューポイント）へのスキップ、あるいはマスターテンポの使用などが可能です。これはミキシングに使用すると良いでしょう。
 - **All Relative** : 針のドロップに非対応。
 - **Wheel** : 針のドロップに非対応。Vinylはホイールコントローラーと同様に機能します。
- 後ろのふたつのモードには、タイムリミットはありません。好きなだけメディアを演奏することができます！

- "適用"ボタンを押してください。



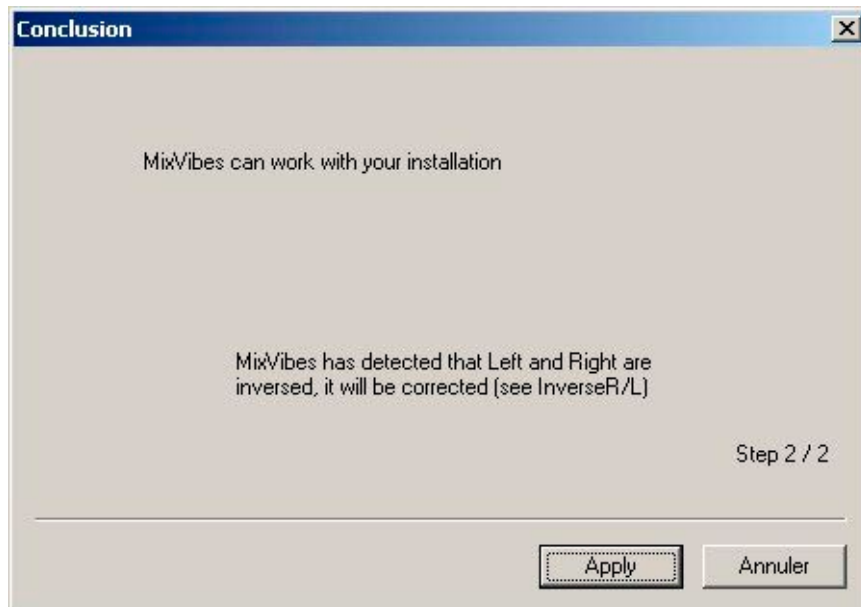
4- キャリブレーション

キャリブレーションの前に、ターンテーブルのピッチは0に設定されていることを確認してください。

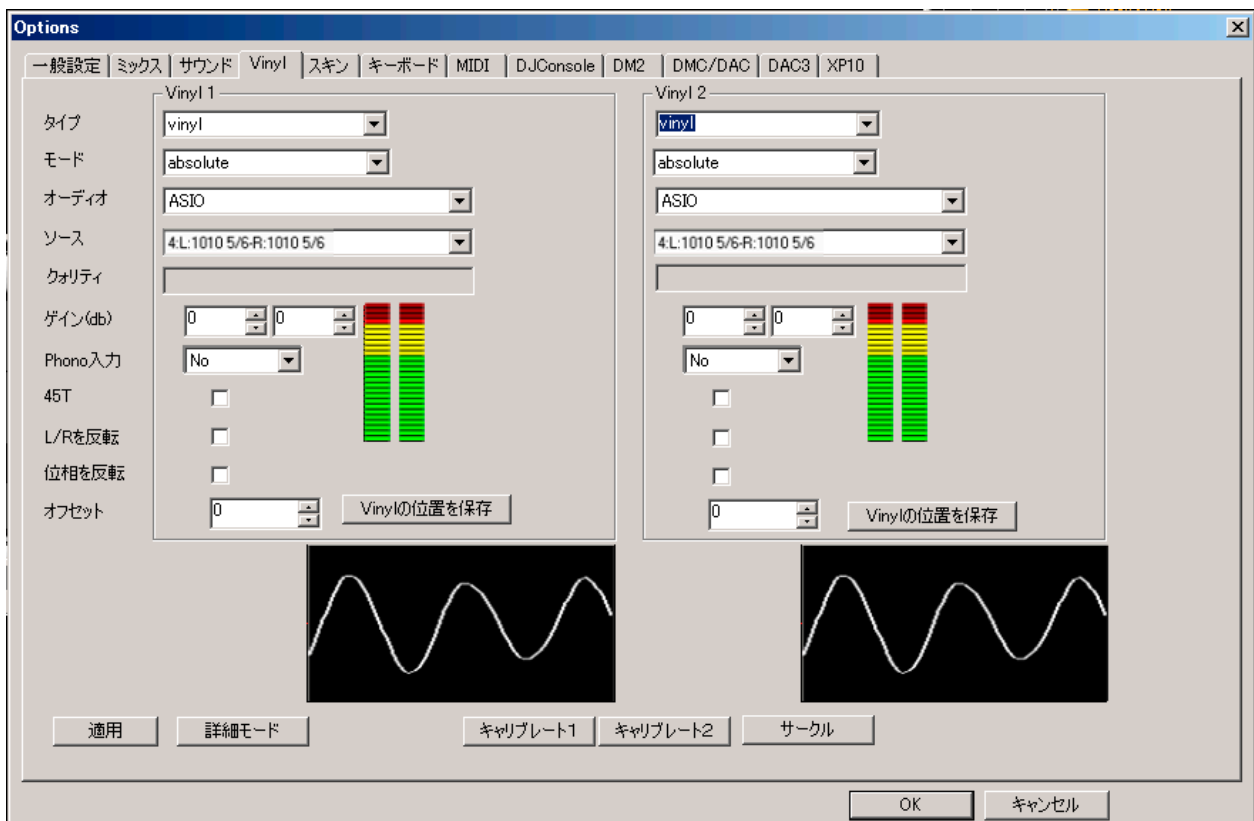
キャリブレーションを行うには、ふたつの手順を実行します。

- Vinylレコードが止まっている（そして針が置いてある）状態でノイズ検知
- Vinylが回転している（そして針が置いてある）状態でサウンド検知

MIXVIBESはキャリブレーション結果を表示します。もしキャリブレーションが成功した場合、"MIXVIBESはご使用のインストール先で正常に動作します"というメッセージが表示されます。

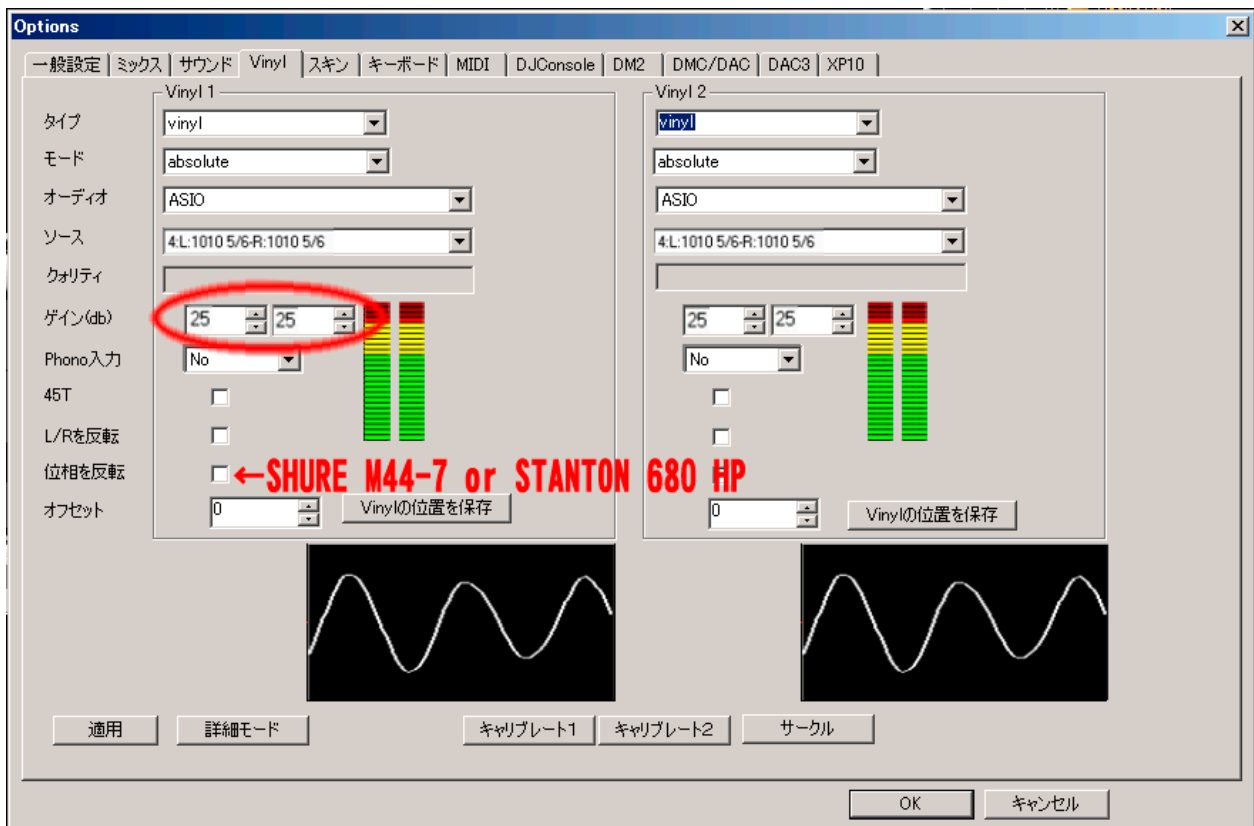


適切な設定が行われている状態では、レベルメーターは最初の赤いバーまで届き、波形は正弦曲線を描くはずですが。"クオリティ"欄（Version 6.19以上）にはタイムコード値のパーセンテージが表示されます。この数値は60%以上でなければなりません。



SHURE m44-7またはStanton 680 HP カートリッジ（またはその他）をご使用の場合、"位相を反転"ボックスをチェックしなくてはなりません。シグナル内で位相の反転を行うCDプレイヤーもあります。その場合は"位相を反転"をチェックする必要があります。

最適なパフォーマンスを得るために、ゲインを手動で調整することができます。タイムコード検知が最初の赤いバーに届くまで"適用"を押します。下記の例では、赤いバーが点灯しすぎています。赤いバーに届く設定にするためには"ゲイン"値を22～23dbに下げます。



III：メニューについて

1-ファイル



新規メディアベース：新しいメディアベースを作成します。現在読み込まれているメディアは破棄されます。

開く-メディアベース：既存のメディアベース（.vib）を開きます。

開く-シーケンス：既存のシーケンス（.vsq）を開きます。

シーケンスはメディアベースに依存します。そのため、たとえば *TEST.vib* というメディアベースは以下のような名前のシーケンスを含んでいます：*TEST_seq1.vsq* / *TEST_seq2.vsq* / *TEST_seq3.vsq*
メディアベースがまったく読み込まれていない場合は、シーケンスを開くことはできません。また、あるメディアベースを開いているときに、別のメディアベースのシーケンスを開くことはできません。

開く-オーディオファイル：オーディオファイルを開いて、メディアベースに追加することができます。

保存-メディアベース：メディアベースを.vib形式で保存します。

保存-シーケンス：シーケンスを.vsq形式で保存します。

別名で保存：メディアベースに名前を付けて任意の場所に保存します。

ファイルのインポート：プレイリスト（m3u、txt、lst）を読み込みます。

ファイルのエクスポート：プレイリスト（m3u、txt、lst）を書き出します。

スキャン：メディアベース内で選択（複数選択可）したファイルをスキャンすることができます。この機能を使うと、BPMと波形情報のふたつの情報を、選択したファイルから引き出すことができます。



波形情報は、オーディオファイルの名前.vpkという形式で、ご使用のMIXVIBESのPEAKフォルダに保存されています。

オプション：これはMIXVIBESの機能のなかでも最も重要なもののひとつです。次の部分で詳細が説明されています。

リセット：演奏を即座に停止し、プレイヤーを空にします。

プロパティ：メディアベースのプロパティを表示します。

終了：MIXVIBESを終了します。

2-編集



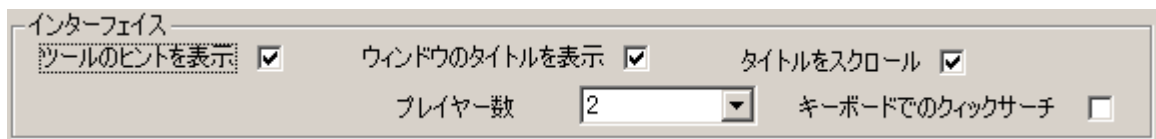
削除：選択したファイルを削除します。

編集：ファイル情報を入力します。

検索：メディアベース、またはプレイリストでファイルを検索します。

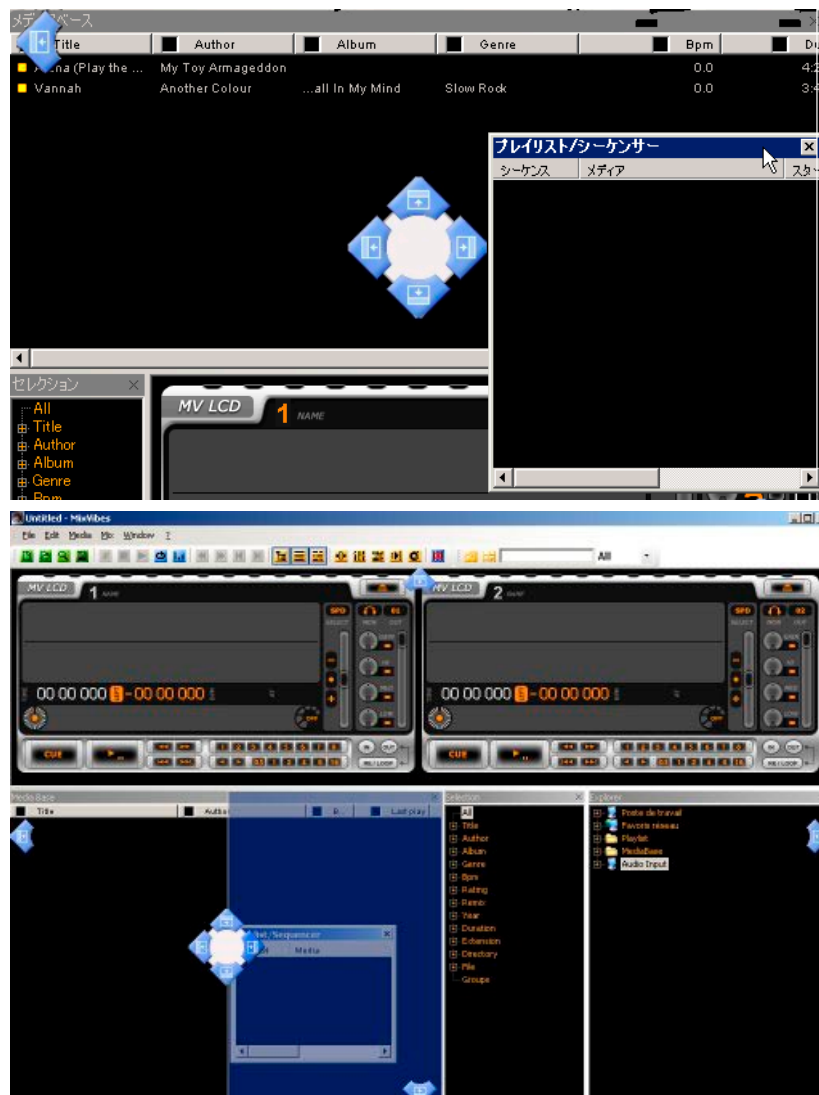
すべてを選択：ファイルをすべて選択します（例：ファイルのスキップのために）

3-オプション - 一般設定



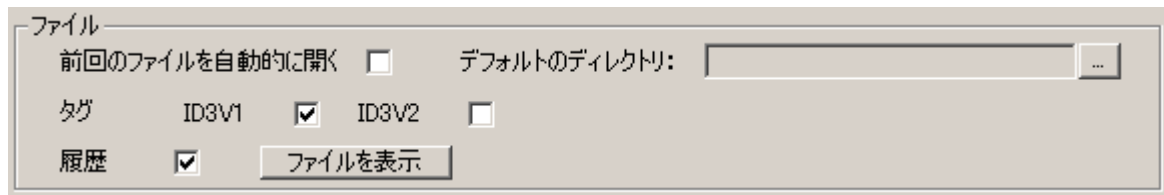
ツールのヒントを表示：ツールのヒントを表示します。

ウィンドウのタイトルを表示：MIXVIBESのウィンドウ（メディアベース、プレイリスト、セクション、ファイルブラウザ）にタイトルを表示します。このオプションをチェックした場合、ウィンドウを動かして、MIXVIBESのインターフェイスを変えることができます。



タイトルをスクロール：曲名（ファイル名）が長すぎる場合のスクロールを有効にします。

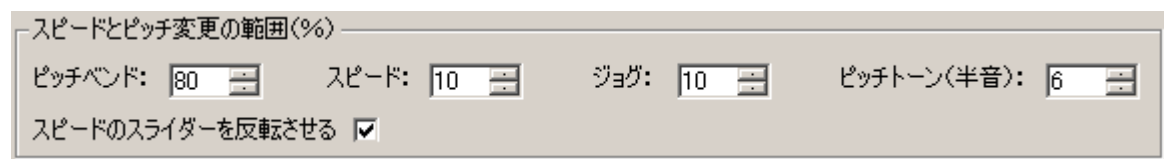
プレイヤー数：プレイヤー数（2または3）。3番目のプレイヤーは仮想的なものでしかありませんが、もしご使用のサウンドカードが対応していればアナログ入力（マイク、ライン）を取り扱うこともできます。ミックスの録音に使用することができます。



前回のファイルを自動的に開く / デフォルトのディレクトリ：これは最後に使ったメディアベースを自動的に読み込みます。常に同じメディアベースを使って作業している場合、このオプションは非常に便利です。

タグ：使用したいIDタグのバージョンを選択することができます。ID3V1、またはID3V2が選択できます。

履歴：セッション中に使ったファイルの履歴をまとめるオプションです。この履歴ファイルはメモ帳で編集、あるいは変更することができます。そのためには<ファイルを表示>をクリックしてください。

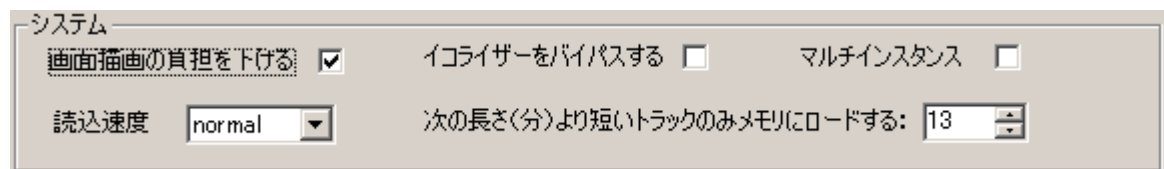


ピッチベンド：ピッチベンドの変更範囲を選択します。

スピード：スピードとマスターテンポの最高値を設定します。

ジョグ：ジョグのスピードの変化量を設定します。

ピッチトーン：キーモードのトーンの最高値を設定します。



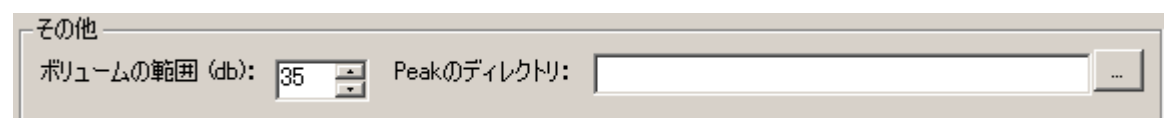
画面描画の負担を下げる：画面描画の負担を下げ、音声処理の優先度を上げるようにします。このオプションはVinylのコントロールの優先度を高めます。

イコライザーをバイパスする：MIXVIBESのイコライザーを無効にします。DJミキサーのイコライザーを使う場合に有効です。

マルチインスタンス：複数のMIXVIBESを同時に起動します。ASIOは、オーディオカードを使う複数のプログラムを開くことはできません。

読み込み速度：MIXVIBESの優先度を設定します。

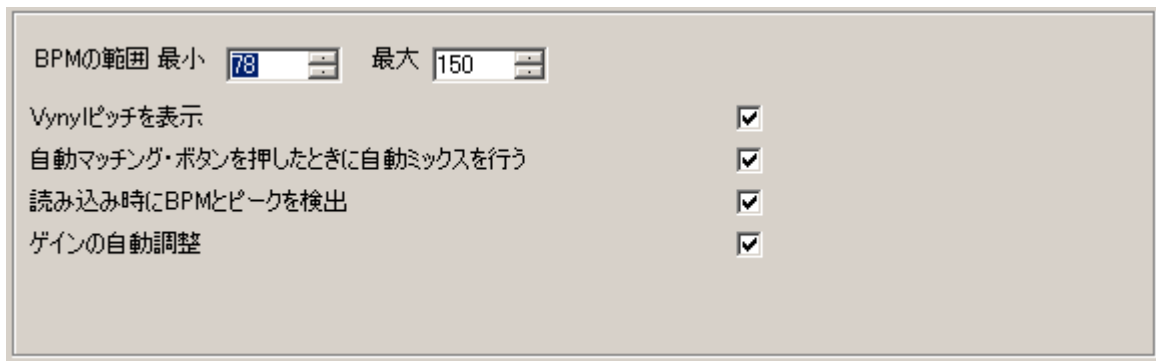
次の長さより短いトラックのみメモリにロードする：メモリ（RAM）に読み込むメディアの上限時間を分単位で設定します。



ボリュームの範囲：ボリュームフェーダーの範囲を設定することができます（ソフトウェアミキサーのみ）。

Peakのディレクトリ：Peakファイルを保存する場所を設定します。

4-オプション - ミックス



BPMの範囲 最小 最大

Vynylピッチを表示 ☒

自動マッチング・ボタンを押したときに自動ミックスを行う ☒

読み込み時にBPMとピークを検出 ☒

ゲインの自動調整 ☒

BPMの範囲 最小値/最大値：ファイル分析の際の、BPM検出範囲を設定します。

Vinylピッチを表示：MIXVIBESによって分析された、ターンテーブルのピッチを表示します。

自動マッチング・ボタンを押したときに自動ミックスを行う：もうひとつのプレイヤーと自動的に同期し、ミックスを自動で行います。このオプションはソフトウェアミキサーでのみ使用可能です。

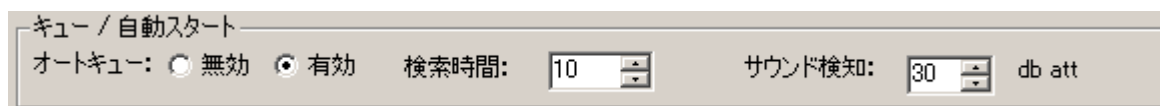
読込時にBPMとピークを検出：メディアがプレイヤーに読み込まれると同時に、曲のBPMを検出します。

ゲインの自動調整：ゲインラックで設定された値を参考に、読み込んだファイルのゲインを自動調整します。



ゲイン

THRESH: -3, ATTACK: 4000, RELEASE: 500, COMPRESS: -9, THRESH: 5, ATTACK: 200, RELEASE: 2.00:1, GAIN: 0, LIMIT: -3



キュー / 自動スタート

オートキュー: ☐ 無効 ☒ 有効 検索時間: サウンド検知: db att

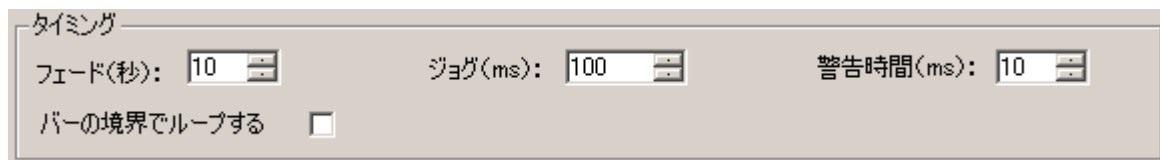
このオプションは"読込時にBPMを検出"が有効になっているときのみ使用可能です。

オートキュー：曲の最初のビートにキューポイントを自動で設定します。

検索時間：曲の冒頭からMIXVIBESがキューポイントを検索する時間の範囲を設定します。

サウンド検知：このdB値ではキューポイントとして認識する最小の音量を設定します。

この例では、MIXVIBESは曲の最初の10秒間の位置でキューポイントを探し、音量が30dBと同等あるいはそれに近いものを認識します。この値に届いた最初の地点がキューポイントになります。



タイミング

フェード(秒): ジョグ(ms): 警告時間(ms):

バーの境界でループする ☐

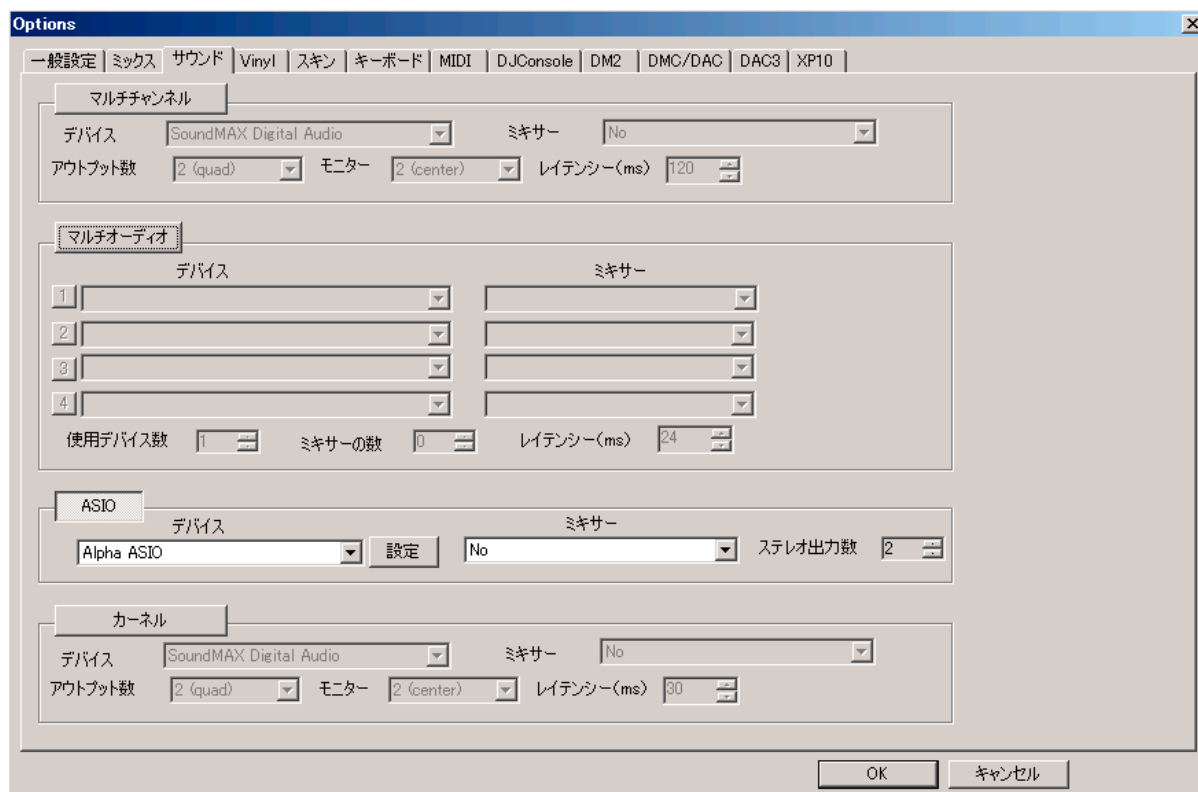
フェード：自動化されたプレイリストの曲がフェードしていく時間を設定します。

ジョグ：ジョグホイールを使用する際の変化量の最大値を設定します。

警告時間：曲の終点を知らせる警告を設定します（ここでは曲の終了10秒前に設定されています）。

バーの境界でループする：手動ループの開始ポイントと終了ポイントのビートを自動的に設定します。このオプションを使うと完璧な手動ループが設定できます。

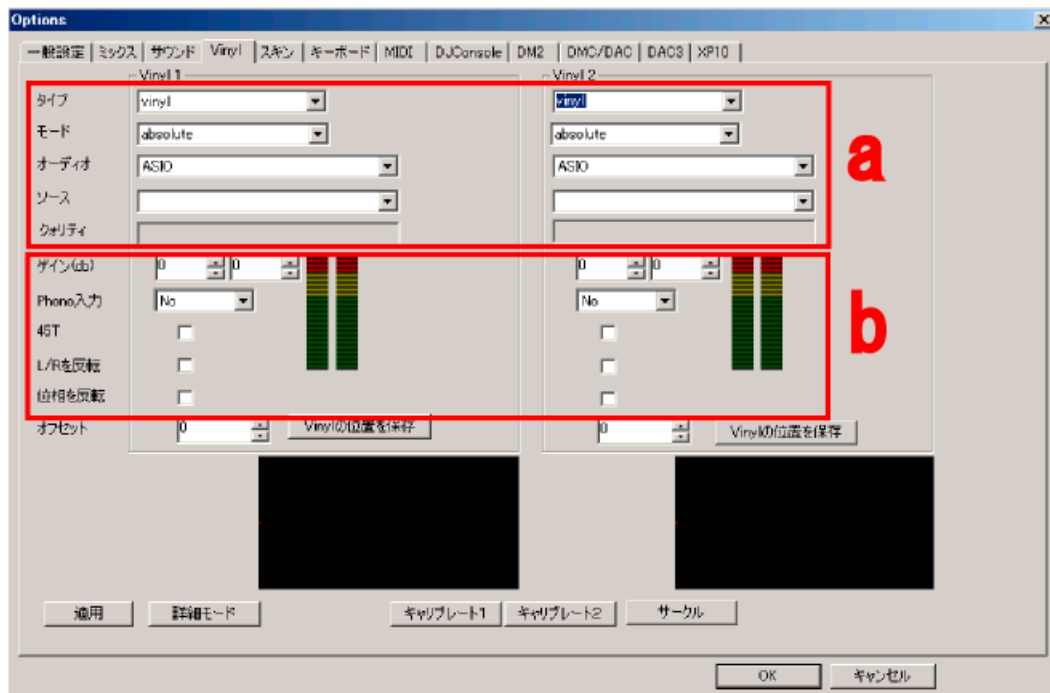
5- オプション - サウンド



ご使用のサウンドカードのオーディオモードを設定します。

最適なレイテンシーには、ASIOモード、カーネルモード、またはマルチオーディオが最も良い選択肢です。Version 6.19以上のMIXVIBESを使っている場合は、マルチオーディオはステレオチャンネルのカーネルで管理されています（ただし、カーネルモードのマルチチャンネルとは異なります）。

6- オプション - Vinyl



タイプ：どの対応タイムコードをMIXVIBESに接続するのか選択します（指定なし/Vinyl / CD）。

モード：ターンテーブルのコントロールモードを選択します。

- **Absolute**：針のドロップに対応。MIXVIBESはVinylレコードの厳密な位置を常に追従します。このモードはより正確で、スクラッチに最適です。
- **Relative time**：針のドロップに対応。針のドロップはVinylのタイムコードに比例します。もし曲の中間に移動したい場合には、針をVinylレコードの中間に置いてください。このモードでは、針が小さく動いても、MIXVIBESは曲の位置を更新しません。Vinyl上の位置と曲の位置が異なる場合があります。また、ループ、特定の位置（キューポイント）へのスキップ、あるいはマスターテンポの使用などが可能です。これはミキシングに使用すると良いでしょう。
- **All Relative**：針のドロップに非対応。
- **Wheel**：針のドロップに非対応。Vinylはホイールコントローラーと同様に機能します。

オーディオ：オーディオカードを使用します。ASIOは複数のオーディオカードを同時に使うことはできません。ASIOを使用する場合は、オーディオカードではなく"ASIO"を選択してください。

ソース：各入力の中から、シグナルのソースを選択します。

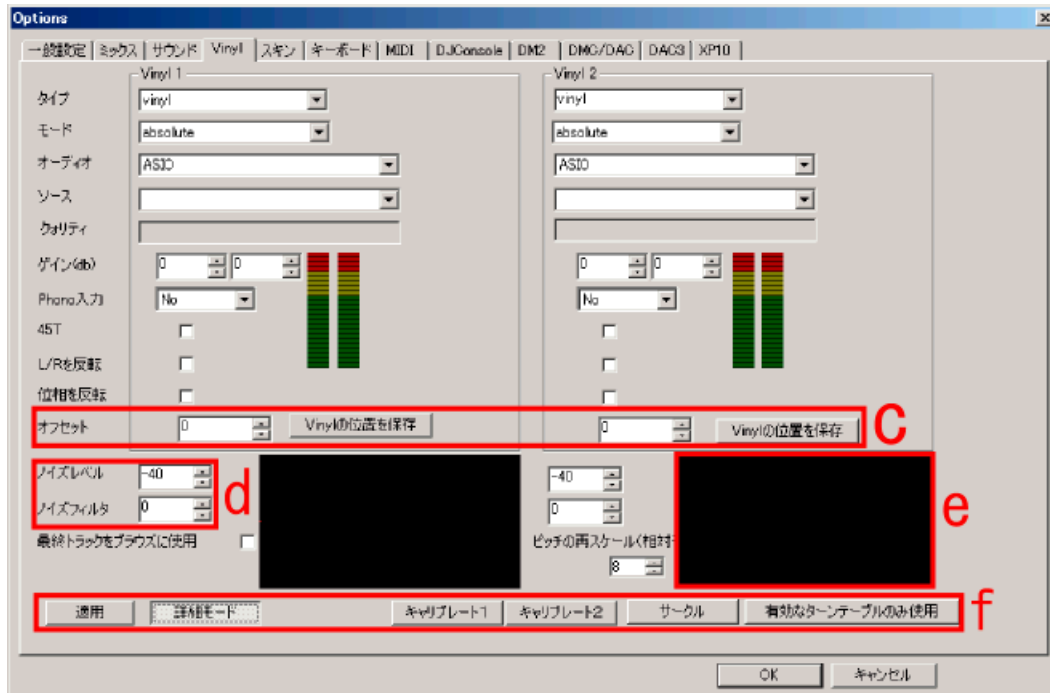
ゲイン：出力に適用します。ビューメーターから直にコントロールすることもできます。通常、ビューメーターは赤いバーの最初とその次のレベルの間で点灯するべきです。

Phono入力（RIAAフィルタ）：RIAAプリアンプのソフトウェア・エミュレーションです。これを使うと、PHONOターンテーブルを直接サウンドカードに接続することができるようになります。ターンテーブルがLINEシグナルを生成している場合は、このプリアンプを使う必要はありません。Vinyl Version2を使用する場合は、このオプションを解除してください。

45T：45TターンテーブルスピードでDVS Vinylをミックスする場合はこのオプションをチェックしてください。

L/Rを反転：ターンテーブルのチャンネル反転を可能にします。

位相を反転：位相の反転を必要とする針がいくつかあります。Shure M44-7やStanton 500/680hpです。



オフセット：Vinyl上にリードを作成します。このリードをミリ秒単位（1000ms = 1秒）で定義して<適用>を押します。または、Vinylの好きな場所にリードを置いて、<保存>を押し、次に<適用>を押します。ミキサーチャンネルのCUEボタンを右クリックすることで設定することもできます。

ノイズレベル：dB単位でノイズレベルを設定します。

ノイズフィルタ：ヘルツ（Hz）単位でアンチノイズフィルタの周波数を設定します。

このふたつのオプションは非常に重要です。ゴロゴロという雑音、電気関係の問題、アース端子の不良、またはターンテーブルから出る雑音がある場合、入力信号をきれいにするため、ノイズフィルタを強力にすると良いでしょう（例：150）。ターンテーブルからノイズがより多く出ている場合には、それに応じて周波数を上げるべきですが、特に遅いスピードのときに音の精度が減衰します。

Vinylを停止してもMIXVIBESが演奏ををし続ける場合は、ノイズレベルを上げる必要があります。例えば、通常-40dBに設定されているところを、-35dBにします。より良い感度を得るには、この値を下げるとよいでしょう（例：-45dB）。

クオリティ：MIXVIBESは適切なタイムコード値およびボリューム値をパーセンテージ表示します。この数値は、60%以上でなければなりません。もしこの値に満たない場合は、針を確認してください。ほこりが多くたまっている可能性があります。

ターンテーブルを通過する信号の視覚的なコントロール

このスクリーンから、多くの問題、電気障害や、ゴロゴロという雑音でさえも検知できることでしょう。

適用：各変更のあとに、このボタンをクリックしなくてはなりません。

詳細モード：DVSの特別なパラメーターへとアクセスできます。

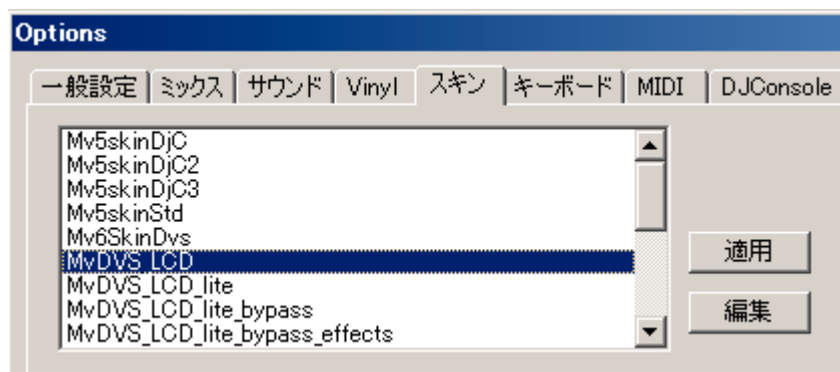
キャリブレーション 1：1番目のターンテーブルのキャリブレーションを開始します。

キャリブレーション 2：2番目のターンテーブルのキャリブレーションを開始します。

サークル：波形の形状をサークル状にします。

有効なターンテーブルのみ使用：ターンテーブルをひとつだけ使用している場合のみ、この機能を使ってください。

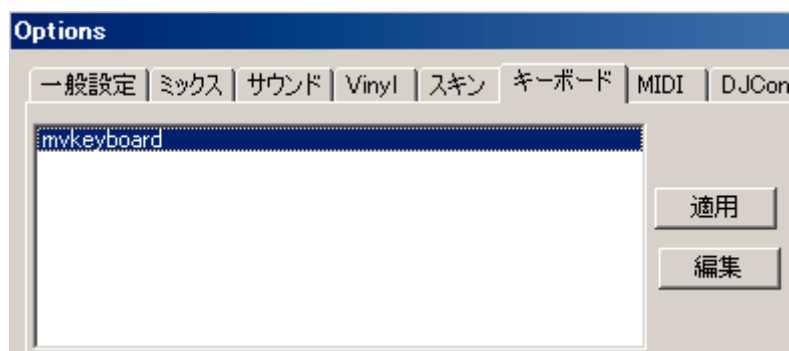
7-スキン



MIXVIBESのスキンを選択することができます。それぞれに特徴があります。ご自身のMIXVIBESの利用方法に最も適したスキンを選択しましょう。



8- キーボード / MIDI / DJ Console



これらの3つのアプレットでは、キーボードのショートカット、MIDIコントローラ、Hercules DJ Consoleの設定ファイルを読み込み、編集することができます。

9- メディア



プレイ：メディアファイルを読み込み、再生します。

ストップ：ファイルの演奏を停止します。

早送り

巻き戻し

ファイルを削除：選択したファイルを完全に削除します。

パスを変更：選択したファイルの格納場所を変更できます。

ID3タグを保存：選択したファイルのタグ情報を保存します。

情報を保存

情報を読み込み

BPMカウント：手動BPM調整ツールを表示します。

アナライズ：選択したファイルを分析します。

BPM マッチング：BPM を自動で分析したり、微調整できます。

ポジションを初期化：キューポイントを削除します。

10-その他

プレイヤー内を右クリックすると、MIXVIBESはコンテキストメニューを表示します。



付録1：通常のVinylレコードを音声として再生するには

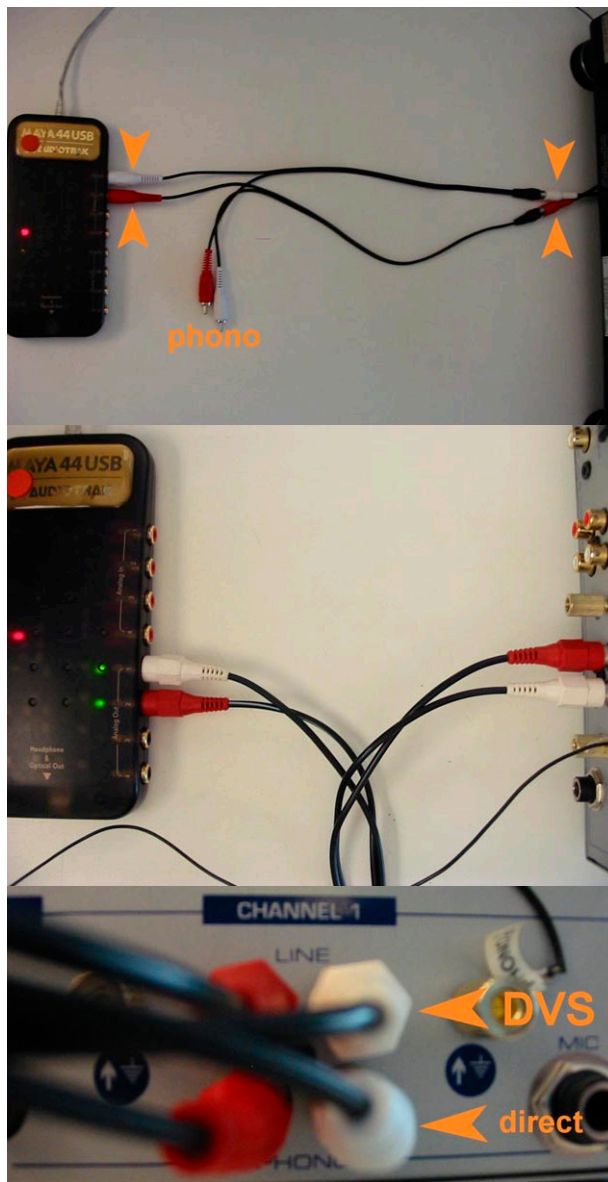
本物のVinylレコードを再生するには2つの方法があります。

- Yケーブルを使用
- 一部のスキンに含まれているBypassボタンを使用

1-Yケーブル



Yケーブルを使用する方法です。入力信号はふたつの出力コネクタに分割されます。Yケーブルを使用すると、オーディオカードのサウンド出力、またはターンテーブル上の本物のVinylレコードの音のどちらかを選択することができます。ご使用のオーディオミキサーのPhono/Line/Auxセレクターを使うこともできるようになります。また、サウンドカードはミキサーの入力に接続され、ターンテーブルはPhono入力にされることになります。



Yケーブルをターンテーブルケーブルの各RCAに接続してください。各Yケーブルを、オーディオカードの入力へ、そしてオーディオミキサーのPhono入力へと接続してください。

オーディオカードの出力はオーディオミキサーのLineまたはAuxへと接続されます。アースはオーディオミキサーに接続されてはなりません。Yケーブルを使用しない場合でも同様です。

これで、オーディオミキサーのPhono/LineまたはAuxセレクターを使って、オーディオカードの音またはVinylレコードの音を聴くことができます。

2-Bypassボタン

いくつかのスキン（LCDbypassスキンなど）にはBypassボタンが含まれています。このボタンをクリックするだけでVinylレコードを試聴することができます。mp3をVinylタイムコードでコントロールしたい場合にはこのボタンを無効にしてください。



付録2：MIXVIBESを最適化してパフォーマンス/レイテンシーを改善する

最適な設定とPCIオーディオカードを使用することによって、レイテンシーを1msまで下げることができます。FireWireを使う場合は、レイテンシーを4-5msに設定することがより一般的でしょう。

Windowsの最適化

- Windowsを最高の描画パフォーマンスができるように設定してください。
- 省電力機能を解除してください。
- LANを無効にしてください。
- Windowsのバックグラウンドサービスの優先順位を設定してください。
ASIOドライバの多くには推奨しますが、カーネルやマルチチャンネルにはおすすめしません
- 常駐プログラムを解除してください。（アンチウィルス/ファイアーウォール）

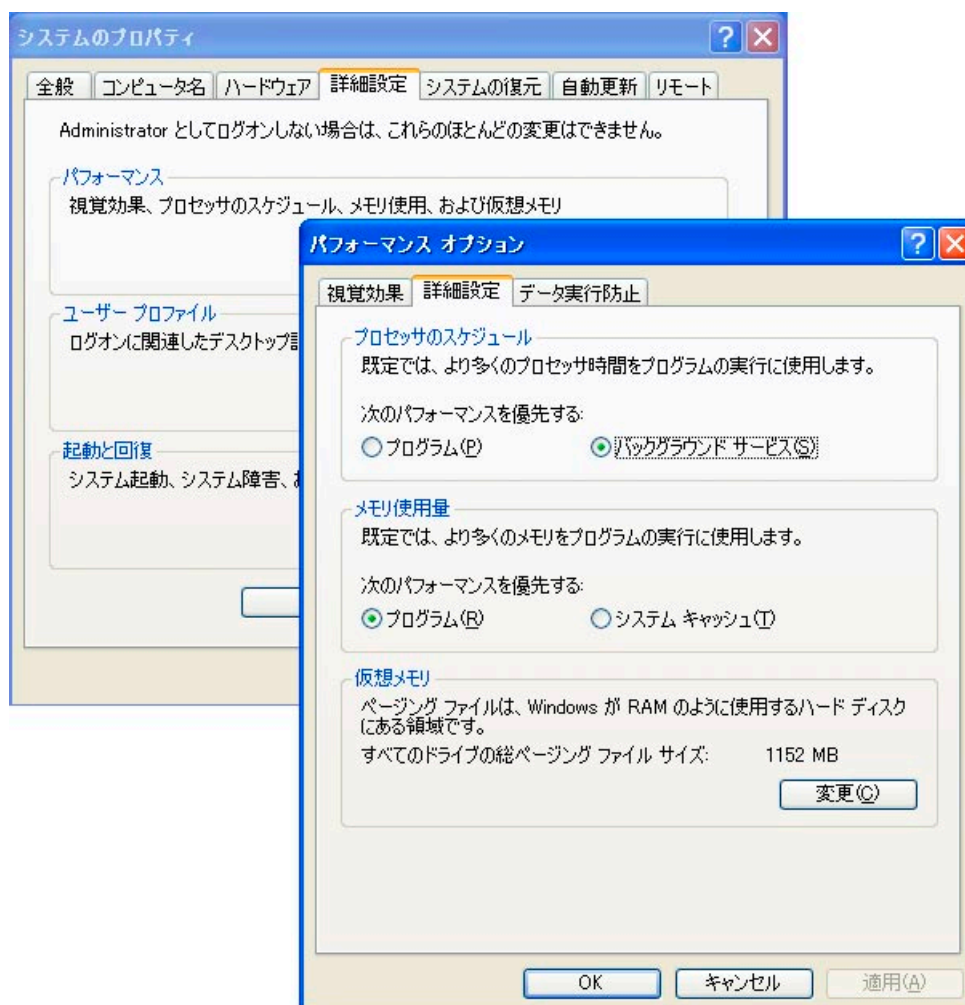
MIXVIBESの最適化

- 目盛り表示にしてください。（各波形ウィンドウで右クリック）
- すべてのファイルをあらかじめアナライズしてください。
- より素早く正確な分析を行うには、あまり大きすぎないBPMインターバルを選択してください。（例:100 140）
- MIXVIBESのイコライゼーションが不要な場合は、"イコライザーをバイパスする"をチェックしてください。
- "画面描画の負担を下げる"をチェックしてください。
- ツールのヒントを表示のチェックを外してください。
- タイトルをスクロールのチェックを外してください。

付録3：環境設定に関する問題

- MIXVIBESプレイヤーに曲を読み込んでいるときにクリックノイズが聞こえる
- 常にクラックノイズが起こり、ときにはサウンドサチュレーションが起こることがある

レイテンシーが低すぎる場合があります。問題が解決するまでレイテンシーを上げてください。ASIOモードでは、サウンドカードを16bit/44 kHzに設定する必要があります。特にASIOモードでは、"バックグラウンドサービス"を優先するように設定しておくことが重要です。Windowsのスタートメニューから"コントロールパネル"を開いて設定してください。また、Windowsの"視覚効果"を"パフォーマンスを優先する"ように設定することもできます。



- **スピードが安定しない**
いくつかの原因が考えられます：
 - サウンドカードのレイテンシーが低すぎる
 - レコード針にほこりがたまりすぎている
 - レコード針が重すぎる
 - レコード針に問題がある
 - アース接続が外れている
 - 電気障害。Vinylオプションと正弦曲線の描画のオシロスコープを確認してください。
 - 入力レベルが高すぎる：RIAAプリアンプ、またはターンテーブルのライン出力をご使用の場合、サウンドカードのコントロールパネルで、入力のゲインを下げてください。
- **曲の再生、またはループ中にスキップすることがある**
この問題は、遅いハードディスクを使用していると起こります。ハードディスクやハードディスクを接続するインターフェイスを高速なものに変更するか、RAM容量を増やしてください。

- スクラッチをするとAbsoluteモードに表示が切り替わる

- 曲を停止しても、まだ音が聞こえる、あるいは非常に遅いスピードでクオリティの低い音が聞こえる

"Vinyl"オプションのゲインが低すぎる、あるいはノイズレベルが高すぎる場合があります。または、レコード針にほこりがたまりすぎている場合もあります。レコード針が重すぎる場合もあります。

- 音が逆回転で再生される

左右のケーブルが反対になっています。左右のケーブルの接続を取り替える、あるいは"ファイル/オプション/Vinyl"で"L/Rを反転"をチェックし、MIXVIBESのチャンネル反転機能を使ってください。

- Shure M44-7、またはStanton 680 HPを使っており、Vinylが反応しない

位相の反転をする必要があります。オプション/Vinylにて、"位相を反転"をチェックしてください。

- コンピュータがリソースを使いすぎて、速度が遅くなってしまう

パフォーマンスを改善するには、"イコライザーをバイパスする"と"画面描画の負担を下げる"をチェックしてください。

